

Phonak Target™ 3.3

2014年5月

デスクトップフィッティングガイド

本書では、Phonak Targetを使用した補聴器のフィッティングについて詳しく紹介します。

Phonak Targetのスタート画面の[ニュース] もご覧ください。

目次

目次	1
構成およびナビゲーション	2
補聴器の準備	2
機器の接続	2
音響パラメータの確認	2
アクセサリ	3
基本調整	3
微調整	5
フィッティングセッションの終了	7
CROS/BiCROS	8

構成およびナビゲーション

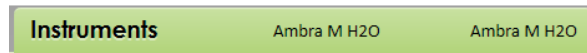
3つのタブ[顧客]、[機器]および[フィッティング]および上部のダッシュボードを使用して、容易にナビゲーションしたり状態の情報を取得したりできます。

個人情報やオーディオグラムなどの全ての顧客情報は「顧客」のタブ上にあります。

全ての補聴器、音響カップリング、リモコンおよびその他のアクセサリは「機器」のタブ上にあります。

機器の調整は全て「フィッティング」のタブ上で行います。

ダッシュボードにはフィッティングの状態とショートカットが表示されます。



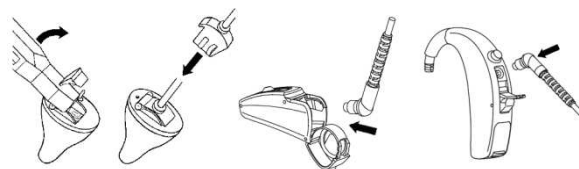
補聴器の準備

iCube

補聴器にケーブルは必要ありません。電池を挿入し、電池ホルダーを閉めて補聴器の電源をオンにするだけです。

NOAHlink または HI-PRO

プログラミングケーブルを補聴器とフィッティング機器に接続します。



機器の接続

使用したいフィッティング機器が表示されていることを確認します。フィッティング機器を変更するには、アイコンの右側にあるプルダウン (▼) を使用します。

[接続]をクリックしてフィッティングを開始します。接続した補聴器がダッシュボードに表示されます。



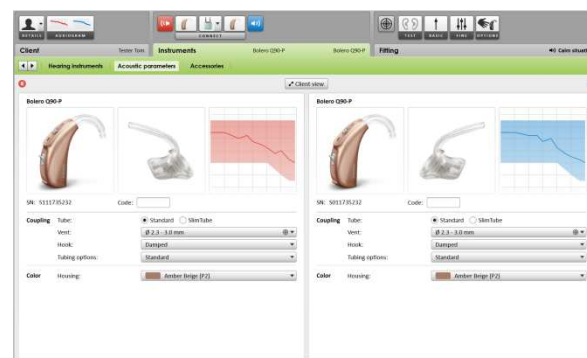
NOAHのオーディオグラムデータが自動的にPhonak Targetにインポートされ、初期計算に使用されます。

音響パラメータの確認

音響パラメータはいつでも表示または変更することができます。

[機器]タブをクリックします。

[音響パラメーター]画面で、適切なカップリングを選択します。



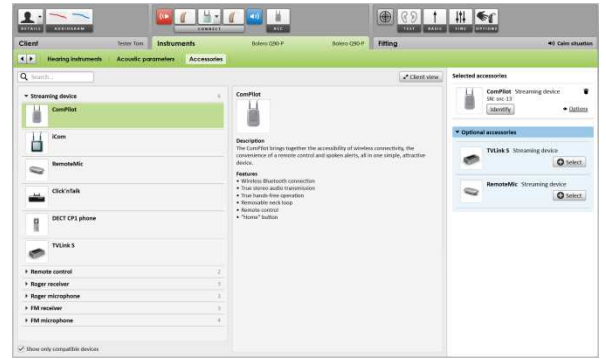
アクセサリ

Phonak Targetは、接続されたアクセサリを自動的に認識します。フィッティングセッション中にアクセサリを接続するだけです。認識されたアクセサリは、ダッシュボード上で、接続された補聴器の横に表示されます。

フォナック パイロットワンにUSBケーブルを差し込む前に、必ず電池を取り外してください。

アクセサリは、**[機器]** > **[アクセサリ]**タブで手動で選択することもできます。

保存処理中に、アクセサリが保存ダイアログにリストされます。

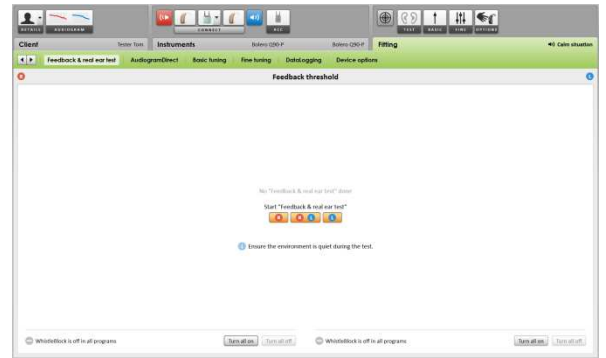


ハウリングと実耳テスト

[フィッティング]タブをクリックし、**[ハウリングと実耳テスト]**にアクセスします。画面下部の**[全てオン]**をクリックすれば、ハウリング抑制機能が有効になります。

ハウリングテストを行う場合、**[右]** / **[左右]** / **[左]**をクリックしてテストを実行します。テストは両耳を中断なく連続して実行することも、片耳ずつ実行することもできます。

テスト結果を使用して予測RECDおよび音響パラメータ設定を計算するには、**[算出したRECDとベントを使用して補聴器設定を再計算します]**のチェックボックスにを入れます。

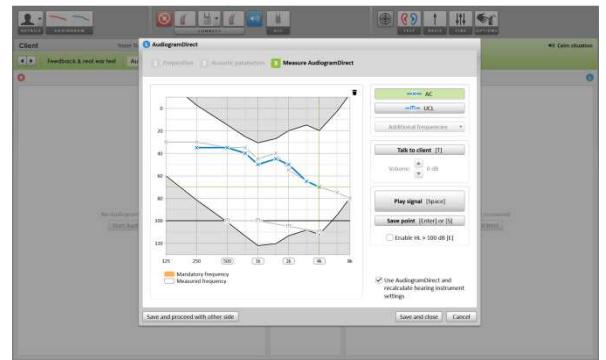


オーディオグラムダイレクト

[オーディオグラムダイレクト]をクリックし、接続した補聴器を使用して聴力レベルおよびUCLを測定することができます。

[オーディオグラムダイレクトを開始]をクリックして、画面の指示に従ってください。

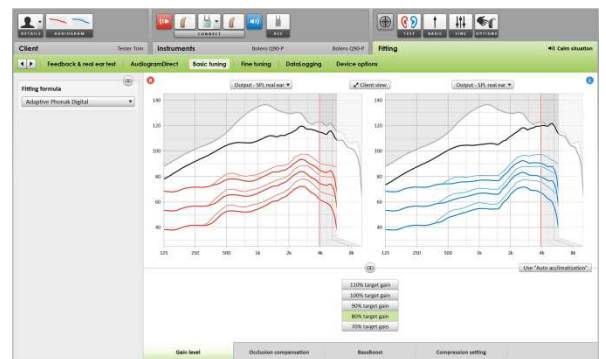
Phonak Target セットアップ(スタート画面からアクセス)で、希望する測定動作を決定することができます。



基本調整

[利得レベル]、**[閉塞感対処]**、**[低音ブースター]**、または**[圧縮比の設定]**が調整可能です。ツールは画面下部のタブから選択できます。

利得レベルおよび圧縮比の設定は、顧客の使用経験および選択したフィッティング処方に基づきます。



自動順応マネージャ

自動順応マネージャは、全てのクエストシリーズの補聴器に対して[基本調整]画面で使用できます。

補聴器利得を設定した期間を経て、目標利得に自動的に増加させることができます。

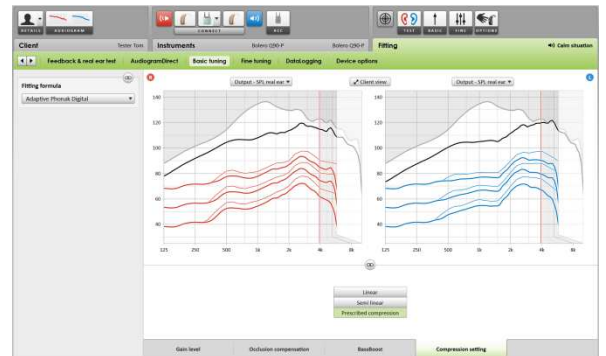
自動順応マネージャを使用する場合、あらかじめハウリングテストを実行する必要があります。



圧縮比の設定

補聴器の圧縮動作をワンタッチで切り替えることが出来ます。また、顧客がリニア増幅の補聴器を長期間使用している場合は[ややリニア]が選択されます。このオプションを使用すると、リニア増幅の補聴器からスムーズに移行するため、推奨されたフィッティング処方よりも圧縮比が低くなります。

手動で[リニア]を選択することもできます。このオプションは、全帯域の圧縮比を出来る限りリニアにする一方で、選択したフィッティング処方の目標を保持します。



リアルタイム・ディスプレイ

[顧客表示]をクリックすると、リアルタイム・ディスプレイを表示することができます。拡大表示、またはマルチディスプレイで表示されます。

リアルタイム・ディスプレイは、フィッティングカーブ表示オプションとして使用できます。

語音明瞭度の改善や、利得・出力、サウンドリカバーおよびマルチチャンネル信号処理をステレオまたはサラウンドサウンドのメディアファイルを用いて容易に実演することができます。



微調整

[微調整]画面の左側は、調整するプログラムの選択に使用します。

[全てのプログラム]をクリックすると、全てのプログラムと一緒に調整します。[サウンドフロー]をクリックすると、自動プログラムのプログラム全てを変更します。リスト内の1つのプログラム、例えば[静かな環境]をクリックすると、そのプログラムのみを調整します。

[+]アイコンをクリックして、手動、イージー、またはストリーミング用プログラムを追加します。

プログラム上部の[プログラムマネージャを開く]をクリックして、プログラムを管理することができます。これにより、さらにプログラムの詳細を設定することができます。



画面下部のタブから、フィッティングツールにアクセスできます。各ツールでは、特定の補正を行って補聴器を微調整することができます。

アンドゥ (元に戻す) /リドゥ (やり直し)

アンドゥ/リドゥ機能は、画面上部のメニューバーにあります。微調整画面で手順をアンドゥ (元に戻す) またはリドゥ (やり直し) する場合は、これをクリックします。

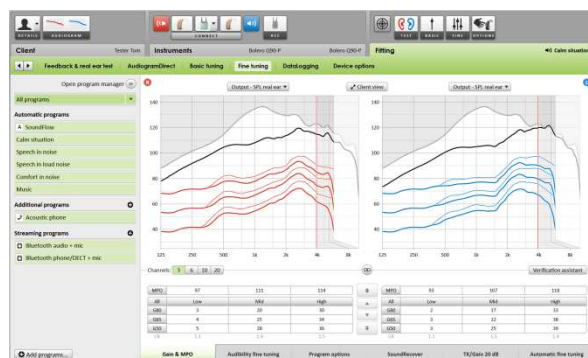


利得&MPO

マウスポインタで変更したい利得値を選択して調整します。小さい、普通、大きい入力音、および大きい入力音に対して調整できます。個々のUCL値を顧客のオーディオグラムに入力した場合、ダイナミックレンジを使用できます。

全てのチャンネルのMPOを一括して変更するには、MPO値の左側の[MP0]をクリックします。全体の利得は[全て]をクリックして変更することができます。

各チャンネルの圧縮比は、利得値のすぐ下の行に表示されます。



オーディビリティ・ファインチューニング

選択可能なサウンドサンプル音と関連する利得がカーブ表示に示されます。サンプル音を再生して、特定の聞き取り環境をシミュレーションすることができます。

[サウンドの選択とデモ]から信号音を選択します。聞こえの反応に応じて、決められた周波数で利得を調整します。



プログラムオプション

補聴器の各機能は、必要に応じて個々に微調整することができます。現在の設定は、0から20までのスケール上に位置し、各スケール内に使用可能なレンジが表示されます。

追加プログラムとして、自由にカスタマイズできる「カスタムプログラム」を使用することができます。

データログが使用可能な場合、フレックスコントロールで行われた各パラメータの変更が後続のセッションで表示されます。



サウンドリカバー

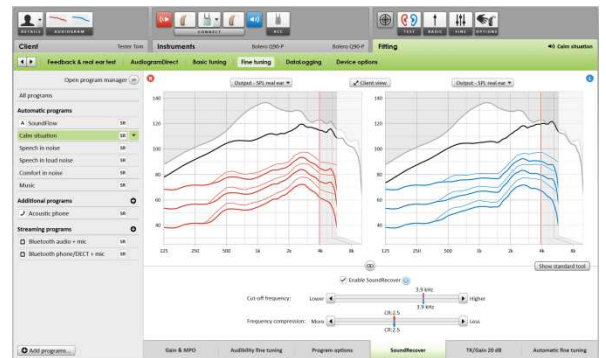
初期計算で設定されたサウンドリカバー設定を微調整できます。両耳フィッティングの場合、カットオフ周波数および周波数圧縮比は良聴耳に基づいて計算されます。

1つのセッションで互換性のない補聴器と一緒にフィッティングする必要がある場合は、両方のサウンドリカバー設定を確認してください。

サウンドリカバーの強さを必要に応じて強く、または弱くし、言語明瞭性、可聴性および音質を向上させることができます。



サウンドリカバーの拡張ツールでは、カットオフ周波数と圧縮比を独立して調整することができます。この機能を有効にするには、**[拡張ツールの補正を表示]**をクリックします。



TK/利得 (20 dB)

非常に小さい(G20)入力音の増幅は、この画面で調整することができます。非常に小さい音の利得を増加すると、エクスペンションニーポイント(TK)が低くなります。逆も同様です。

マウスカーソルで値を選択して調整します。利得値の下に、各チャンネルのTK値が表示されます。非常に小さい入力音の利得/出力が、カーブ表示に示されます。

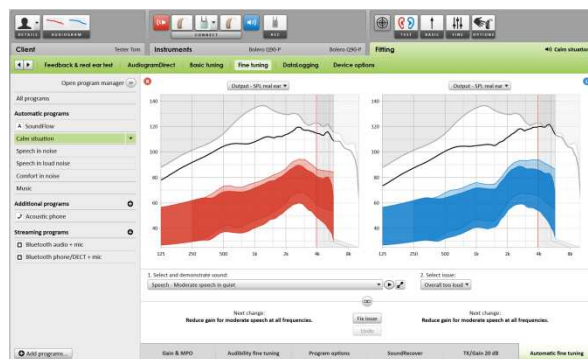


オートマチック・ファインチューニング

これは状況に応じた微調整ツールです。使用可能な調整は、音環境の顧客の評価によって異なります。

調整のステップが画面に表示されます。選択したプログラムに応じて、推奨されるサンプル音が事前選択されます。

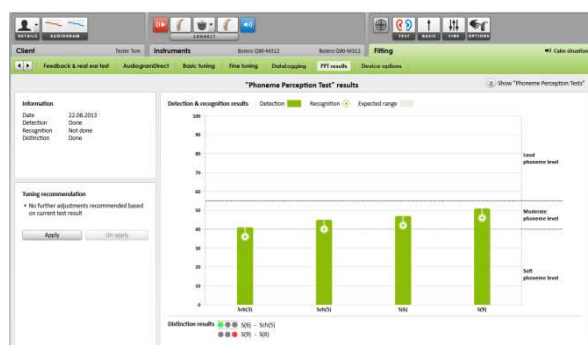
サウンドサンプル音を再生して、聞き取り環境をシミュレーションすることもできます。



音素認識テスト結果

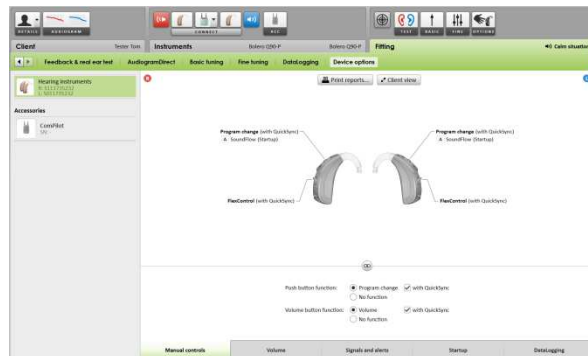
直前の音素認識テストの結果を表示したり、テスト結果からフィッティングを改善することができます。[音素認識テスト結果]画面は、互換性のあるテスト結果がNOAHのセッションリストで使用可能な場合のみアクセスすることができます。

注意：フィッティング処方アダプティブ・フォナックデジタルを使用している場合のみ、微調整の推奨が提供されます。ユーザー志向ラーニングがオンの場合、微調整の推奨を適用することはできません。



機器オプション

[機器オプション]をクリックして、ブープ音の設定などの補聴器のオプション、選択したアクセサリのオプションを設定できます。



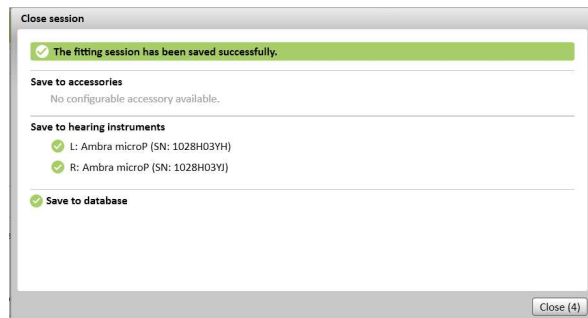
フィッティングセッションの終了

画面右上角の[セッションを閉じる]をクリックして、いつでもセッションを閉じることができます。

保存ダイアログで、「補聴器へ保存」と「アクセサリへ保存」にチェックが入っていることを確認します。

保存後、ダイアログを閉じるとTargetのスタート画面に戻ります。

NOAH版の場合、スタート画面の右上角の[NOAHに戻る]をクリックすると、NOAHに戻ることができます。



CROS/BiCROS

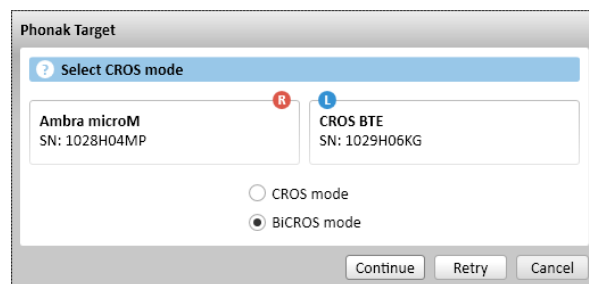
フォナック クロス、CROSおよびBiCROSのフィッティングに使用します。両耳間通信に対応した全てのスパイスおよびクエストシリーズ補聴器と互換性があります。

機器の接続

接続の手順は通常のフィッティングと同じです。フォナック クロスと受信機となる補聴器を同時に接続してください。

接続されたら、CROSモードかBiCROSモードのいずれかを選択します。

BiCROSフィッティングの場合は、補聴器のホイッスルブロックをオンにしてください。

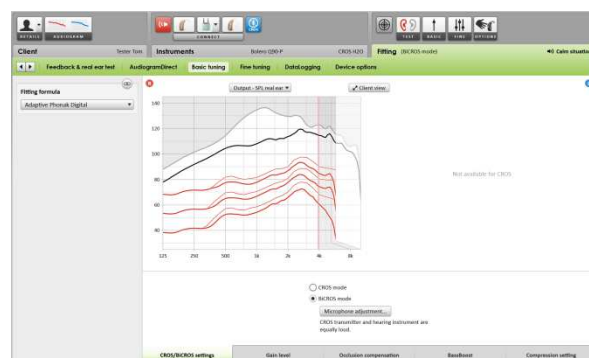


フォナック クロスの調節


BiCROSモードでは、**[基本調整]**の**[利得レベル]**でフォナック クロス使用時の補聴器利得が適切に最適化されます。変更は補聴器のみに適用されます。

BiCROSフィッティングの左右のバランスを調整する必要がある場合は、**[基本調整]**画面の**[CROS/BiCROS 設定]**をクリックします。

BiCROSモードの場合、**[マイクロホンの調整...]**をクリックして、指示に従いながらフォナック クロスと補聴器の音量バランスを調整できます。



良聴耳の補聴器は、通常のフィッティングと同じ方法で調整できます。

両方の機器をフィッティング機器から取り外し、電源をオンにすると、フォナック クロスと補聴器の間のワイヤレス接続により、両耳間ストリーミングが自動的に開始します。フォナック クロスと補聴器の接続が正常であるかどうかは、補聴器のピープ音‘クロス接続済’  信号音によって確認できます。

  Phonak AG
Laubisrütistrasse 28
CH-8712 Stäfa
Switzerland

CEマーク2014適合